

みんなで、祖生のこれからをつくっていく 「祖生農村 RMO」

九月を迎え、日中にはまだ暑さが残りますが、朝夕の風や稲刈りの景色に、秋の訪れを感じる頃となりました。季節が進むように、世界と祖生を取り巻く環境も劇的に変わってきています。今はまさに時代の動いた幕末に似ているといっても過言ではありません。

幕末に日本の近代化へ力を尽くした小栗上野介忠順は、こんな言葉を残しています。

「『どうかなろう』という一言が、国を滅ぼす」

「そのうち何とかかなるだろう」と先送りすることへの戒めです。今の祖生でも、農地や草刈り、買い物や移動、地域行事や担い手のことなど、「この先どうしたらよいのだろう」と感じる場面が増えていきます。

だからこそ祖生農村 RMO では、誰か一人に任せるのではなく、地域にある人・組織・知恵をつなぎ、みんなで少しずつ“どうにかしていく”仕組みを考えていきます。

10 年、20 年先にも、美しい田園と里山が残り、安心して暮らせる。若い人や子どもたちの笑い声が聞こえ、笑顔で声を掛け合える祖生へ。



小栗上野介忠順
幕末の幕臣
勘定奉行

理想は分かるけど、、、では、どうやって進めるの？

まず地域の声を聞き、現状を整理し、三つの部会で話し合い、できることから少しずつ始めています。

① 農用地の保全

田畑・水路・
草刈り

② 地域資源活用

自然・農産物・
行事

③ 生活支援

買い物・移動・
見守り

集会・聞き取り → 8/24・26 三つの部会
→ 9/10 合同会議

祖生のビジョンと「まずやること」へ
新しい組織をつくること自体が目的ではありません。
今ある人・組織・活動をつなぎ、できる人が、できることを、できる範囲で。そこから始めます。



農村 RMO のめざすイメージ

これからの予定

9 月 10 日

三つの部会の話を持ち寄り、
藤山先生と今後の道筋を整理

秋～冬

農地・地域資源・生活支援で
調査や小さな取組を進める

年度末を目標に

祖生の地域ビジョンと
RMO 設立宣言を形にしてい

皆さんの「ここが心配」「こんな祖生にしたい」という声が、これからの大切な材料です。是非アンケートにご回答いただき、ご意見ご要望をお聞かせください。

祖生農村 RMO 地域住民アンケート

— 10 年、20 年先も、安心して笑顔で暮らせる祖生へ —

左ページの地域おこし協力隊通信 第二号とあわせて、祖生農村 RMO について皆さんの声をお聞かせください。回答は、今後の 3 部会の検討、地域ビジョンづくり、具体的な取組を考えるための大切な材料にします。全部に答えなくても構いません。気になるところだけでも、ぜひご記入ください。（□にはチェック☑をお願いします。）

まず、差し支えない範囲で （お名前： ）

集落_____ 年代 □39 歳以下 □40～59 歳 □60 代 □70 代 □80 歳以上

「祖生農村 RMO」について、今回の通信を読んでどう感じましたか。（複数可）

- ☐ 初めて知った ☐ 名前は聞いたことがあった ☐ 内容が少し分かった ☐ 期待している
☐ まだよく分からない ☐ 負担が増えないか心配 ☐ もう少し話を聞きたい

① 農用地の保全 — 田畑・水路・農道・草刈りなど —

「特に気になる」「進めてほしい」と思うものに☑をつけてください。（いくつでも）

- ☐ 草刈りの負担を軽くしたい ☐ 水路・農道を守りたい ☐ 担い手・後継者が心配 ☐ 鳥獣被害を減らしたい ☐ 荒廃農地を増やしたくない ☐ 作業を頼める・助け合える仕組みがほしい
☐ 農村景観を守りたい ☐ 農業者以外も参加できる保全活動があるとよい

② 地域資源の活用 — 自然・農産物・伝統文化・地域の魅力 —

「特に気になる」「進めてほしい」と思うものに☑をつけてください。（いくつでも）

- ☐ 農産物・特産品をもっと活かしたい ☐ 加工・直売・販売につなげたい ☐ 田園・里山など景観を残したい ☐ 柱松など伝統文化を次世代へつなげたい ☐ 空き家・古民家を活かしたい
☐ 体験・観光につなげたい ☐ 地域イベントや交流の場を充実したい ☐ 祖生の魅力をもっと発信したい ☐ 祖生「道の駅」プロジェクト

③ 生活支援 — 買い物・移動・見守り・子育てなど —

「特に気になる」「進めてほしい」と思うものに☑をつけてください。（いくつでも）

- ☐ 買い物・通院の支援がほしい ☐ 地域交通・送迎を考えてほしい ☐ お年寄りの見守り・声かけを充実したい ☐ ごみ出し・家事などの助け合いがあるとよい ☐ サロン・居場所・交流の機会を増やしたい ☐ 子育て・学習・体験を地域で支えたい ☐ 児童・生徒が安全に移動できる仕組みが必要 ☐ スクールバスと地域交通の併用を検討してほしい ☐ 災害・緊急時の助け合いを強くしたい

伝統文化を守る方々の負担を少しでも支え、子どもたちがその意味に触れられるような取組も、祖生農村 RMO で皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。